

今年の夏は、新しい生活様式で過ごしました。

毎日雨の続いた7月。梅雨明けと共に連日38度を超えた暑さの8月。新型コロナウイルス感染防止の対策を講じながら、「新しい生活様式」の日々が秋も続いています。

各地区サポート委員会の活動は、この影響で、例年通りにはいきませんが、小中学校が再開した際の分散登校の安全見守りを行ったり、学校応援団の活動の中で、あいさつ運動や屋外での活動を実施したりしている地区もあります。「3密を避け、うがい手洗いを励行する」を基盤に、新しい生活様式はこれからも続きます。

この号では、7月末に開催されたサポート本部会議、10月の代表者会議の内容をお伝えするとともに、今までのサポート事業について振り返ってみます。

子どもサポート本部会議を開きました

今年度第2回サポート本部会議は、7月30日（木）大東市民センター（大東公民館）で、ソーシャルディスタンスをとりながら、実施しました。

今年度初めての対面での会議でしたので、川越市子どもサポート本部会議についての運営要綱を確認した上で、今年度の活動についての話し合いをしました。新型コロナウイルスの感染防止の観点から、大勢の人数が一堂に会する事業「サポート発表会」については、中止すること。また、子どもサポートコンクール小江戸見つけ隊の作品募集と展覧会は、美術館のガイドラインを遵守をしながら実施すること等を決定しました。

サポート本部会議としては、11月に行っている子どもサポートコンクール小江戸見つけ隊審査会へ向けて、準備を進めていくことを確認し合いました。

<令和2年度子どもサポート本部会議決定事項>

○令和2年度の川越子どもサポート発表会の中止

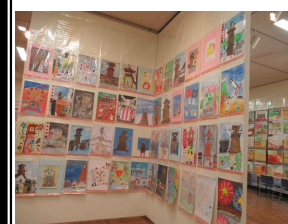
○子どもサポートコンクール小江戸見つけ隊は、美術館のガイドラインに沿って行う。

子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」募集中！

只今、子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」の作品を募集中です。地域のよさやすばらしさを作文や絵画、新聞に表現して皆さんに紹介した作品が、続々と届いています。応募の内容は以下のとおりです。作品の〆切は10月30日（金）です。

- (1) 作文の部・・・B4版400字詰め原稿用紙3枚以内
- (2) 絵画の部・・・四つ切り画用紙、縦・横は自由
- (3) 新聞の部・・・B4版・縦長1枚、画用紙等はB4の大きさに切る。写真等を用いるのは可とするが、写真のみの作品は不可。パソコン等での作成も可。

応募された作品を部門ごとに小学校低学年の部（小1～小3）と小学校高学年の部（小4～小6）、中学生の部に分けて審査をしていきます。



全応募作品展覧会

令和3年2月17日～21日（日）

川越市立美術館 市民ギャラリー

代表者会議（サポート委員長）で情報交換を行いました

10月15日（木）北公民館において、今年度第1回目の代表者会議を開催しました。代表者会議は、川越市内にある14のサポート委員会の委員長が参加します。毎年、サポート事業の進捗状況や今後の課題等について意見交換をしています。今年度は、以下のような柱立てで情報交換と意見交換をしました。

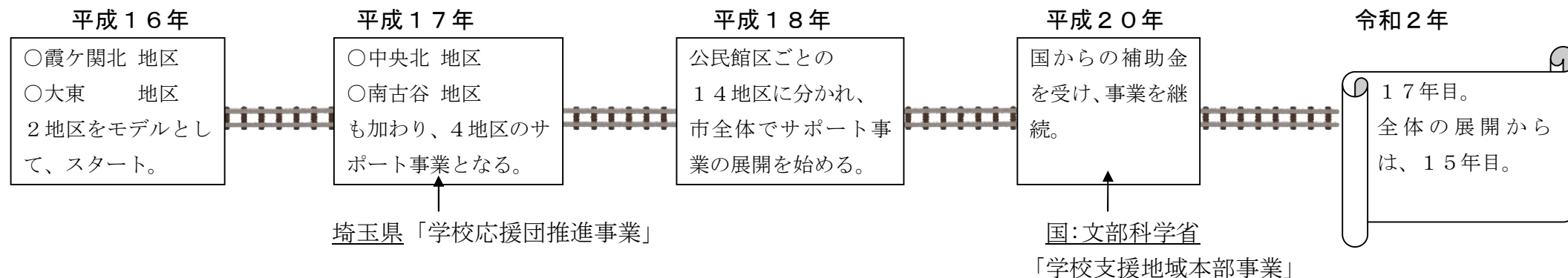
- 1 各地区の現状報告
- 2 来年度のサポート活動についての意見交換
- 3 今後の子どもサポート事業の在り方

活動が例年通りにできていない今だからこそ、サポート活動についてじっくり見直すチャンスと捉えましょう。各地区で、サポート事業が始まってから現在までと、今後のサポート活動をどのようなものにしていくか、地区内の学校とよく相談しながら進めていきましょう。等々、活発な意見交換がありました。

今後も話し合いを続けていきます。



川越子どもサポート事業の歴史



活動は、この大きな二つの柱で行っています。

地域の子どもは地域で育てる
川越子どもサポート

登下校見守り
あいさつ運動
ミシンボランティア
学校ファーム支援
調理実習支援
総合的な学習の時間支援
生活科支援
環境整備
学校行事見守り 等

子どもたちを育てる。
学校教育を支援することで

学校応援団活動

子どもたちを育てる。
様々な体験活動を提供し、

(地域子ども応援団活動)

地域の特色を生かした事業

コンサート
子どもフェスティバル
あそびの広場
子どもサミット
スポーツ体験
ものづくり体験
文化体験
防災体験
夏休み学習指導
郷土を知る体験
料理教室 等



地域の人・絆・教育力

学校・家庭との連携

川越子どもサポート事業 グランドデザイン

